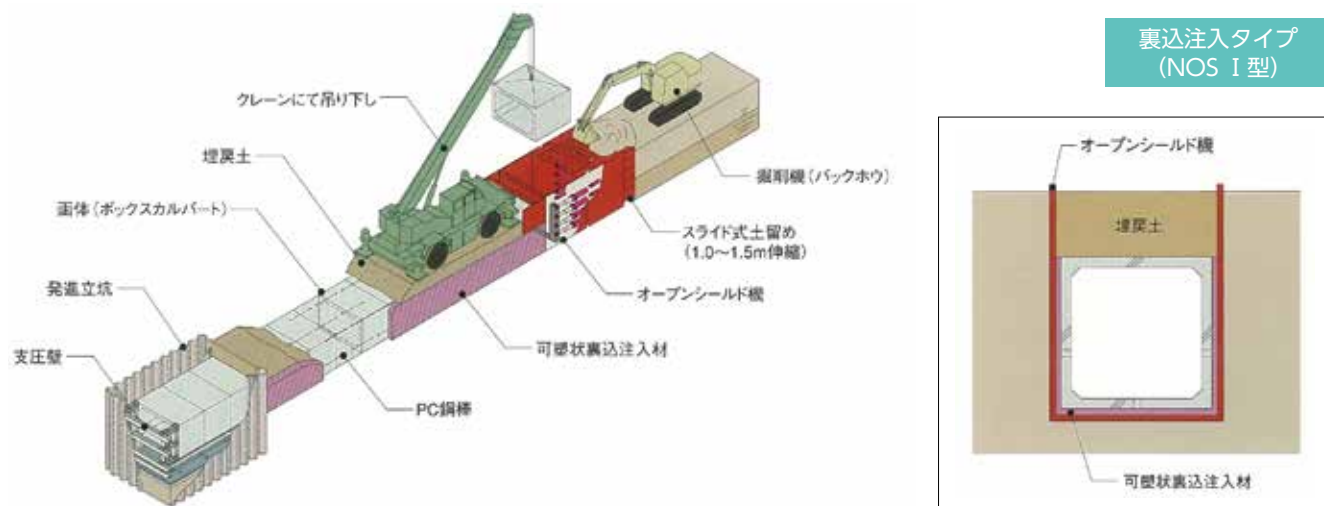


[オープンシールド協会工法]

オープンシールド工法（NOS）は、従来の開削工法やシールド工法に代わる施工方法で、函渠・開渠を地中に埋設する特許工法です。

主に市街地・近接施工・硬軟地盤・高地下水地盤等を中心に、安全性はもとより経済性と環境に配慮した工法です。



概要

上部開放型のオープンシールド機を使用し、地上のバックホウで掘削、函体は地上からクレーンで据付け、函体上部を直ちに埋戻し、シールド機の推進は敷設した函体を反力にしてシールドジャッキにより推進します。以上の工程を繰り返して函体を敷設します。函体の両側部及び底部の3方向のテールボイドに可塑状裏込注入材を充填します。

施工方法により次の4つのタイプがあります。

- | | |
|--------|---------------------|
| 函体反力型 | 裏込注入タイプ (NOS I型) |
| | 裏込注入なしタイプ (NOS II型) |
| 元押し推進型 | 推進タイプ (NOS III型) |
| 函体非反力型 | 自走タイプ (NOS V型) |

NETIS登録番号
KT-990261

特長

- ① 施工幅が小さいため、両側が民家などにより挟まれた狭隘な箇所の施工が可能になります。
- ② 既設水路改修施工において、降雨による増水時対応や重機配置が困難な箇所にも対応可能になります。
- ③ 施工現場における地盤が軟弱であたり、地下水位の高い帯水層であっても施工可能になります。
- ④ 敷設函体上部に、橋梁などの障害物がある箇所の横断・下越し施工が可能になります。
- ⑤ 急曲線施工が可能です。